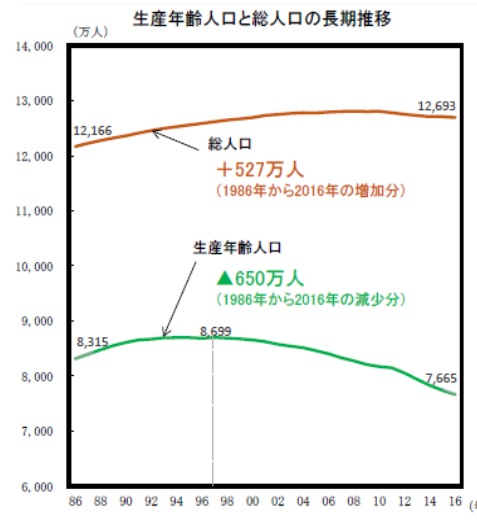


仕事と治療の両立支援について

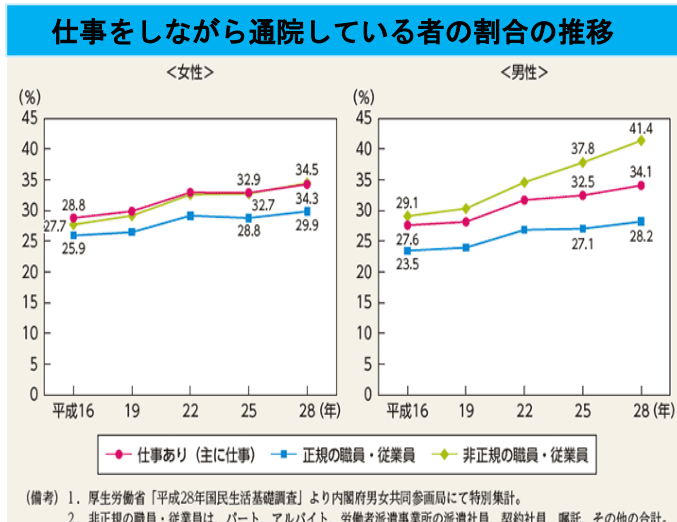
職場にがんになったヒトがいたらどのようにしますか？



職場をとりまく背景



働き手は減るばかり



働きながら通院している割合3~4割

企業が働きやすい職場を目指す意義

様々な背景を抱える人が働きやすい職場

- ・優秀な人材の確保
- ・生産性の向上

治療と仕事の両立支援の定義 病気を抱えながらも働く意欲・能力のある労働者が

- * 仕事を理由として治療機会を逃すことなく
- * また、治療の必要性を理由として職業生活の継続を妨げられることなく
- * 適切な治療を受けながら生き生きと働き続けられる社会を目指す取り組み

治療と仕事を両立する上で直面する課題

- ☆職場の理解・協力が得られないといった「職場の理解・風土に関する問題」
例) 病気や治療に対して職場に言い出しにくい雰囲気がある
- ☆体調や治療の状況に応じた柔軟な勤務が難しいといった「働き方の問題」
例) 体調や治療状況に応じた柔軟な勤務ができない、体調や症状・障害に応じた仕事内容の調整ができない、治療・経過観察・通院目的の休暇・休業が取りづらい
- ☆誰に相談すればよいかわからなかったといった「相談先の問題」
例) 職場内に仕事と治療の両立等について詳しい相談相手がいない
- ☆治療費や収入減に対する「経済的な問題」
例) 治療費が高い、治療費の見通しが立たない、働き方を変えたり休職することで収入が減少する

職場での配慮のポイント①

- ＜体調や通院状況に合わせた働き方＞
- ・出勤時間帯や勤務時間帯への配慮
 - ・休憩時間、休憩のとり方への配慮
 - ・休憩場所や座席の位置
 - ・業務内容や業務量の見直し

職場での配慮のポイント②

- ＜病気に対する理解＞
- ・まわりからのちょっとした声掛け
 - ・職場における役割や対応方針の明確化
 - ・産業保健スタッフや主治医等の活用

ちょっとした配慮や病気に対する理解があることで、まわりに相談しやすく・働きやすくなります

相談を受けた時のポイント

- ・仕事を続けたいか？
- ・続けたい場合は周囲へ病気のことを伝えるか？
- ・職場でどのような配慮があると良いか？
- ・相談できる窓口を知らせる

経済的な問題のポイント

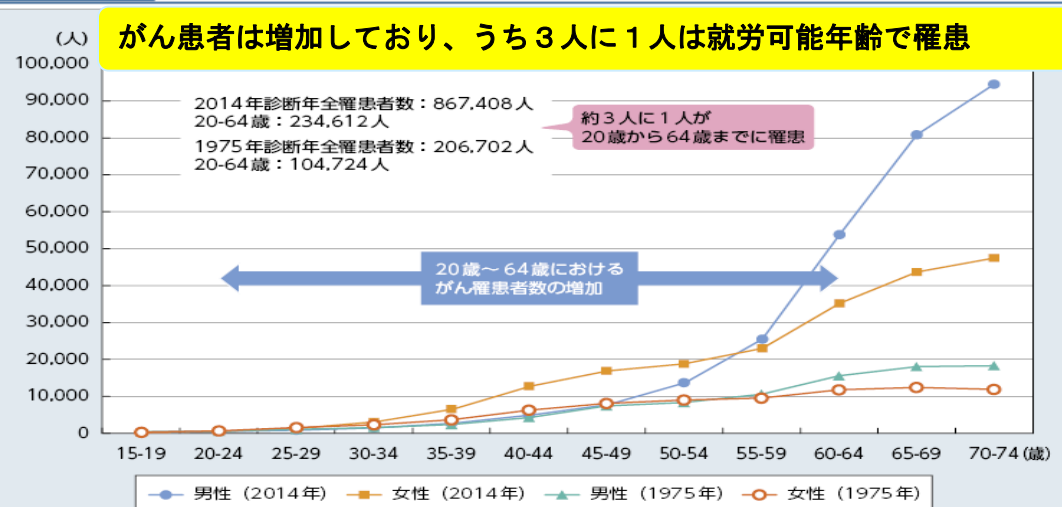
- ・傷病手当金（健康保険）
- ・企業独自の賃金等保障制度（見舞金・補助金）
- ・高額療養費制度
- ・限度額適用認定証
- ・社会資源の活用ができる人材・窓口の周知

その他に・・・

病気の早期発見・治療を始めることで比較的短い期間で治療の目途がついたり、通院のみで治療が可能であったり、休職が短くなる場合もあります。ぜひ、健康診断結果で医療機関への受診が必要な方は受診しましょう。

キーパーソンはあなたです。仕事を辞める必要はありません。ご自身が働きながら治療を受けようと思うことが大切です。主治医や産業医、周囲の誰かに相談してみましょう！

図表1-2-2 性別・年齢階級別がん罹患患者数(1975年、2014年)



治療と仕事の両立は 他人事ではありません

もっと詳しく「治療と仕事」で検索

事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン